三省堂小学校英語マガジン

Ready Set Go!

よーい ドン!

第4号

特集

新教材『We Can!』で教える

Tips for Activities!
～やってみよう 英語活動～

対談 続 ティームティーチング，これから

VIVA 100KING!

SANSEIDO

特集

新教材『We Can!』で教える

今年度より，新学習指導要領の移行期間に入りました。この２年間，配布された文部科学省の高学年用新教材『We Can!』を使って，どのように授業を進めていけばよいのでしょうか。その具体的な指導について，ワークシートの活用も含め，田縁眞弓先生に提案していただきます。

（出典：文部科学省ホームページ　http://www.mext.go.jp）

はじめに

2020 年の「外国語」の教科化に向けて，この春から文部科学省の移行教材『We Can!』の使用が始まります。その内容に関しては，本誌第３号でも触れられていますので，ここでは全国の小学校での指導が始まる今年度からの移行期間において，『We Can!』で教える際のポイントを具体的に考えながら，実際の授業で何をどのように扱うべきかを見ていきたいと思います。

まず，『We Can!』の特徴としては以下の８項目が挙げられています。（平成29年12月4日「新学習指導要領に対応した小学校新教材に係る説明会（1）資料」より）

① 子供の興味・関心に合う題材の設定
② 場面設定から使われている語句や表現の意味を推測し，語句や表現に出合わせる活動の設定
③ 映像資料を視聴して考える活動の設定
④ 既習語句や表現を繰り返し活用する活動の設定，対話の続け方を身に付ける活動の設定
⑤ 言いたいことを表現できるような学習内容の設定
⑥ 細かなステップを踏んだ，読む・書く活動の設定
⑦ ゆっくり文字を読んだり書いたりする活動の設定
⑧ 読んだり書いたりする必然性のある活動の設定

指導のポイント

❶ 児童の興味・関心を惹きつけ，聞いて考えさせる（特徴①②③）…Let's Watch and Think, Let's Listen

『We Can!』は，どのユニットも見開きの２ページで始まります。児童にとって身近なトピックで興味を喚起したり，世界の地理や文化を取り上げたりすることで，その単元で扱う言語材料に出合わせています。例えば『We Can! ①』Unit 2 では，世界のカレンダーとして，さまざまな国のお祭りが掲載されています。ここでは，いきなり月の名称と世界のお祭りを順番に映像資料として視聴させるのではなく，児童の知っていることを問いかけて背景知識を確認したり，「たぶんこんなお祭りだと思う」といった考えを，教師とのやりとりで引き出します。また，“What month is it?” “Which country is it?” のような簡単な質問で，そこに示された数字や国旗から月や国の名前を予想させるようにしましょう。こうして児童の関心を十分に高めたうえで，映像資料を見せるようにします。

【ポイント 1】Let's Listen, Let's Watch and Think では，絵や写真，映像資料などで，これから出合う語彙や表現内容を事前に予想させましょう。

映像を視聴したあと，児童に “What did you hear? Tell me what words you heard.” などと質問し，聞こえた単語や表現を挙げさせる「音拾い」の活動を毎回するようにします。そのときは，児童の実態に合わせ，一人ではなく隣の友達と聞き取れたものを確認するといった協働学習にしてもよいでしょう。自然な速さで話されている視聴覚教材は，児童にとって高いハードルかもしれません。しかし，ここで映像の助けも借りながら「全部わからなくてもいいんだ」「なんとなくこう言っているんだな」と考えながら聞く姿勢をつくることは，教科としての英語学習での重要な「はじめの一歩」になります。

具体例として，１月のスクリプトを見てみましょう。

> ① We celebrate New Year on January 1st in Japan. Many people go to Shinto shrines or temples to make a new year wish. We also eat special food and rice cakes. Children play card games like *karuta* or *hyakunin-isshu*.

‘New Year’, ‘Japan’ という単語や，「かるた」「百人一首」という日本語も聞き取れると想定されますが，それ以外の ‘Shinto shrines or temples’ などは児童になじみがなく，わかりにくいかもしれません。その場合に大切なのは，教師がすぐに日本語で全文を訳したり，黒板に英語の単語を書いて意味を説明したりしないことです。

まず，児童が聞き取ったことを大いにほめるとともに，例

We Can! ① , Unit 2

を挙げながら（例えば “You know ○○ shrine. It’s a shrine.” など児童の知っている神社の名前を挙げる），理解させるようにします。こういった指導を繰り返し行い，映像のない Let’s Listen でも，わかることばからともかく聞き取って意味を類推しようという態度をじっくりと育てていきます。

また，映像資料を視聴させるとき，時には，“Which do you want to watch next?” と問いかけ，次に視聴したいものを選ぶ選択権を児童に与えるといった工夫もできるでしょう。「これをぜひ聞いてみたい」「知りたい」という気持ちを高めれば，単純なリスニング活動を超え，児童が中心となり主体的に学ぶ時間になります。

『We Can! ②』の Let’s Watch and Think には，教室でのスリーヒントクイズの様子（Unit 6）や中学校生活の紹介（Unit 9）など，さらに臨場感あふれる映像があります。ここでも，聞き取れたことから意味を類推しつつ語句や表現に出合わせ，思考力を深める視聴活動とすることが重要です。1 回目は必ず全体を通して視聴させ，2 回目以降は必要なところで止めながら視聴させるようにするといいでしょう。また，時には授業のウォームアップ活動として，以前に視聴した映像教材を再視聴するのもいいかもしれません。

【ポイント 2】意味を類推しつつ繰り返し視聴することで思考を深めるリスニング活動にしましょう。

❷ 既習語句や表現の活用ならびに対話の続け方を学ばせる（特徴④）…Small Talk

新教材の紙面にはありませんが，指導案では Small Talk ということばをよく目にします。これまでの外国語活動においても，授業の最初にその日のトピックに関連することを教師が英語で話す，あるいは ALT の先生を迎えて教師間でのやりとりを聞かせるといったウォームアップ活動はよく見られました。こういった活動も含め，Small Talk の位置づけは，以下のようにされています。

(1) 既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図る
(2) 対話を続けるための基本的な表現の定着を図る

（『小学校外国語活動・外国語　研修ガイドブック（以下，研修ガイドブック）』（文部科学省）より）

実際には，既習の語句や表現も限られている児童がいきなりチャットのように児童間で Small Talk を始めることには無理があります。そこで，5 年生では，インプットを目的とした教師と児童間での Small Talk が各ユニットに何度も登場します。ここではまず 5 年生の Small Talk から見てみましょう。

● 5 年生の Small Talk（教師対児童）

指導案には教師の発話例がたくさん掲載されています。また，研修ガイドブックには，各ユニットにひとつの例文が記載され，YouTube で音声を聞くこともできます。

興味・関心のある身近な話を担任が英語で話しているのを聞くことは，児童にとって大変新鮮な体験です。また，話の内容を理解したいという思いが強まることから，聞く姿勢も育ちます。

Small Talk を児童に理解させるために，教師は表情豊かにジェスチャーを交えて話し，時には，実物・写真・絵などを使うようにします。さらに，児童とふんだんにやりとりをしながら進めることを心がけます。そのやりとりで使う方略（発話を繰り返す・コメントを言う・さらに質問をして話題を広げる）を知ることが，教師自身の英語での指導力を上げます。さらに，児童は，児童間の Small Talk のイメージをもつことができます。

【教師の Small Talk の例】（研修ガイドブックより）

Unit 1
S1: I like sweets.　I like chocolate very much.
T: Oh, you like chocolate?　（児童の発話を繰り返す）

Unit 2
S2: 12 月 22 日（日本語で誕生日を答えている）
T: December 22nd. Your birthday is December 22nd. It’s during the Christmas season. Nice. What do you want for your birthday?
（児童の日本語発話をさりげなく英語にする。コメントを言う。さらに質問する。）

● 6 年生の Small Talk（児童対児童）

5 年生と同じく，最初に教師と児童間の Small Talk で話題とやりとりを導入したあと，児童に「伝えたいこと」を考えさせ，さらに「相手意識」をもったやりとりをさせます。2 時間に一度，約 10 分間行う活動として指導案には示され，その具体的なトピックの提案がなされています。

この Small Talk は，既習事項を繰り返し使って定着を図り，対話を続ける表現を学ぶことを目的としています。しかし，“What’s your name?” など，お互いに知っていることを聞き合ったり，“What color do you like?” “Do you like dogs?” “Can you play the piano?” と，相手の答えにさして興味もない質問を脈絡なく交わすことは，あまり好ましい活動とはいえません。本当の情報を丁寧に相手に伝えたり，また興味をもって聞いたりすることが大切であると理解させ，既習表現を使いながら積極的に相手と関わり，「対話を続けるたくましさ」を身につけさせたいものです。同時に，自分の思いを英語ではなかなか伝えきれないもどかしさを体験することが，「もっと英語がわかりたい」という動機づけにつながるかもしれません。

【ポイント 3】Small Talk を通して思いを伝え合う方法を学ばせましょう。

❸ 言いたい思いを伝えるための活動を大切にする（特徴⑤）…Let’s Play, Activity

『We Can! ①』では，今までの教材には含まれていなかった he/she という代名詞が入っています。また，頻度を表す 4 つの副詞（always, usually, sometimes, never）が紹介されます。『We Can! ②』では，動詞の過去形を新たに学びます。それ以外にも新出で扱われる文法事項を見ると「いよいよ中学校英語の前倒しか？」と思われがちですが，実際には，これらの文法事項を

明示的に指導することは小学校英語の目的ではない，という点を教師は十分に理解しましょう。

新しい表現を学ぶことで，児童は今まで以上に言いたい思いを高め，本当の情報をより具体的に語ろうとします。具体例を見てみましょう。

『We Can! ①』Unit 4 では，児童は一日の生活を表す表現と頻度を表す副詞に出合います。日課に関する表現は，4 年生用教材『Let's Try! ②』Unit 9 の This is my day. で扱われています。しかし，今年度の 5 年生は初めて触れることになるので，十分に音声で慣れ親しませることが大切です。学年を超え，可能であれば指導を始める前に，『Let's Try! ②』Unit 9 を見せるとよいでしょう。

日課とその時刻をやりとりする際，児童は本当の情報にとてもこだわる傾向があります。筆者の指導経験においても，"What time do you go home?" という問いかけに，「何曜日の話ですか？」と質問する児童が毎回出たり，"Do you get up at 7:00?" と具体的な時刻を出すと，口々に自分の起きる時刻を言い始め，「休みの日は 9 時まで寝ている」と発言する児童が必ず現れたりしました。ここで頻度を表す副詞を導入することが，自分の情報をより正確に伝えたり，友達との違いに気づいたりする，本当の意味ある活動につながります。

『We Can! ①』の紙面では，アリやウサギなどといったかわいいアイコンとともに，その頻度が週何回程度を意味するか紹介されています。授業では，児童に具体的な個々の日課とそれが週に何回ほどかを尋ねながら，頻度を表す副詞の意味がわかるようにしていきます。紙面を使ってポインティングゲームで副詞の言い方に慣れ親しんだあとは，教師の質問に対して自分の本当の情報を指さしながら答える活動にできるでしょう。

【教師の質問例】 ＊下線部はクラスの実態に合わせて変更

Do you get up at 7:00?
Do you play soccer at school?
Do you do your homework?
Do you go to bed before 9:00?
Do you comb your hair? (チャンツに出る表現)
Do you brush your teeth at night? (チャンツに出る表現)

【児童の活動】 教師の質問に対して

① 自分の答えのアイコンを指さしながら副詞だけ言う。
② 自分の答えのアイコンを指さしながら I always get up at 7:00. などと言う。
③ となりの友達と自分の答えを言い合う。
④ となりの友達と交代で質問し合う。

このあと，単元では世界の子供たちの「家での役割」を紹介し，児童自身の「家での役割」をトピックとして扱います。そこでは，どんな「家での役割」を，誰がどれくらいしているかといった「クラス調査」の活動にすることもできます。

同じように，『We Can! ②』で学ぶ過去形も，文法事項として教師が「教える」ことが目的では決してなく，その表現を使うことで児童の話す内容が広がったり，より具体的になったりするという視点でとらえるようにしましょう。

We Can! ① , Unit 4

小学校ではこういった新出の表現を，場面とともに何度も聞かせ，かたまりとして理解させ，使わせるようにします。明示的な文法の指導は，認知レベルも高まる中学校以降の英語学習に委ねます。小学校での指導は，常にそのことを念頭におきたいものです。

【ポイント 4】 新出の表現を使い，自分の本当の情報や思いを伝える「意味ある活動」をたくさんしましょう。

❹ 細かなステップを踏んだ読み書きの指導（特徴⑥⑦⑧）…Jingle, STORY TIME, Let's Read and Watch/Write, ワークシート

外国語活動では，「大文字や小文字の活字体を認識しその読み方に慣れ親しむ」ことが目的であったのに対し，教科化された小学校英語では，音声から文字への「読み書き指導」が始まります。では，一体どのように指導すべきなのか，『We Can!』に見られる活動を，順を追って見てみましょう。

読み書きの指導は，『We Can!』の紙面からだけではわかりにくいので，ワークシートや指導案をじっくり見ながら，その活動の目的や指導の流れを理解する必要があります。

● 書くことの指導

A. アルファベットの文字を書く

『We Can! ①』Unit 1 でカード並べや歌，カードゲームを通して大文字をしっかり認識し，読み方に慣れ親しんだあと，Unit 2 では，ワークシートを使ったアルファベットを書く活動が始まります。書く順番は，左右対称の直線でできた大文字 AHIM に始まり，次にカーブのある大文字を書きます。さらに，Unit 3 では，十分に小文字が言える，わかる活動をモジュール的に重ね，Unit 4 で，小文字を大文字とマッチングしながら書いていきます。そのあと，Alphabet Jingle と対応した最初の文字を書く活動へと進みます。このように，スモールステップを踏んだ活動を通して，アルファベットの形の認識，読み方，活字体の書き方の定着を図るようにします。また，ビンゴシートを作成するという目的で，文字の名称を聞いて好きな場所に文字を書くといった活動は，次時ではそれを使って，単語の最初の音を聞き取る活動へとつなげることができます。

B. 単語や表現の書写をする

単語や表現を書写させる活動は，『We Can! ①』では，最初は，自分の名前，歴史上の人物の名前のなぞり書き，お誕生日カードの文字の一部の書き込みから始まります。ワークシートでは，まずヒントボックスから絵を選び，貼り付けることからスタート。それから単語１語，次に２語以上からなる表現を，イラストを助けに選んで書写する活動へと展開していきます。自分にとってあまり関連性のない単語を，読み方もわからず意味もはっきりしないまま機械的に書くのではなく，言語活動を十分に重ねたうえで，選択肢から選んで書写する「書く活動」は，『We Can! ②』での Let's Read and Write につながっていきます。毎回の授業で十分に音声で慣れ親しんだものを，児童に負荷をかけない形で一文ずつ書かせ，順に積み上げる。それから，発音を思い出しつつ読んだり，読むことで意味がわかったり，という相乗効果もここでは期待できるでしょう。さらに，単元の最後には，書きためた文を「読んでみよう」とする読みへの動機づけにもつながります。

【ポイント 5】スモールステップでさまざまなストラテジーを使い，無理なく積み上げる「書く活動」をしましょう。

● 読むことの指導

ボトムアップ指導

『We Can! ①』にはページの脚注に小文字のアルファベットと，その文字で始まる２つの単語のイラストがあります。デジタル教材の場合，そこをクリックすると，Unit 1 では，/æ/æ/という音（おん）とともに ant と apple が発音されます。『We Can! ①』ではこれらがアルファベット順に a から z まで表示されており，『We Can! ②』では，最後に２つの文字で１つの音を出す ch, sh, th, wh という音も紹介されています。これらは，それぞれの文字で始まる単語とその共通の音を示したもので，文字と音への気づきを児童に促します。文字が代表する音を認識させる活動としては，『We Can!』の巻末にリストとして挙げられた以下のジングルの活用が考えられます。

- ○ Alphabet Jingle
- ○ Animals Jingle
- ○ Countries Jingle
- ○ Foods Jingle
- ○ Sounds and Letters（ワークシート）

【ジングルの活用方法】

① デジタル教材のジングルを聞き，言えるところは言う。

② パートを分けて言う。

A（文字の名称），/æ/æ/（A という文字の音），apple（その文字で始まる単語）が A から Z まで並べられているので，慣れてくれば，教師と児童，あるいは児童間のペアでパートを分けて言う。

T: A, /æ/æ/　　Ss: Apple!（Ss＝Students）

③ ジングルで触れた単語などを使い，文字と音を結びつける活動を行う。

（ビンゴゲーム，スリーヒントクイズ，制限時間内にその文字で始まる単語をペアで言うゲーム（『We Can! ②』ワークシート）など）

トップダウン指導

ジングルで文字が表す音の理解が進むのに伴い，目にした文字を自力で音声化しようとする児童は増えてきます。そのタイミングを逃さず，児童の「読みたい」気持ちを無理なく自然に伸ばすことは，小学校で行う文字指導としては大変大きな意味をもちます。この，文字を目にしたら「読んでみよう」とする姿勢が，あとに続く中学校・高校でのリテラシー指導のしっかりとした基礎となっていくからです。

『We Can! ①』では各ユニットの最後に主人公の和（かず）とマリアのお話が出てきます。ここでは，教師の読み聞かせやデジタル教材の音声とともに，児童が文字を目で追う体験，あるいは，セリフや繰り返しの部分を文字を追いながら言ってみる活動を取り入れるようにします。『We Can! ②』の STORY TIME では，"Pat, the cat is in the hat." といった音や文字を楽しめる文がたくさん出てきます。下線で示したようなキーワードとなる単語の部分だけ一緒に読むよう，児童に促してもいいでしょう。文字を音声化し，また絵などを頼りに内容を類推する活動は，高学年の発達レベルや知的好奇心に合ったものです。しかし，小学校では，こういった文をすべてスラスラと読むことまでは求めていません。また，読みに関しては個人差が大きくなることにも十分に留意し，児童に負荷をかけ過ぎない指導を心掛けたいものです。

【ポイント 6】ボトムアップとトップダウンでバランスの取れた「読みの指導」をじっくりゆっくり行いましょう。

おわりに

今春からスタートした移行期間の間に，一体何をどのように指導すべきかを考えるとき，新教材の教材研究から得られる示唆は大変大きいものです。今後，2020 年の完全実施では検定教科書が採用され，『We Can!』は姿を消します。だからこそこの移行期間の２年間は，**『We Can!』で教える**ことで，教科としてのイメージを共有し，教師の指導力を上げるための大切な「助走期間」としたいものです。

田縁 眞弓（たぶち・まゆみ）

京都ノートルダム学院小学校英語科スーパーバイザー，京都教育大学連合教職大学院非常勤講師。小学生への文字指導，絵本を使ってのストーリーテリングなどの教員研修を行う。

Tips for Activities!

やってみよう英語活動

5年生の算数で学習する倍数を使った，ウォーミングアップにぴったりの活動です。
高学年ならではの頭と体を使った活動で，楽しく授業を始めましょう。

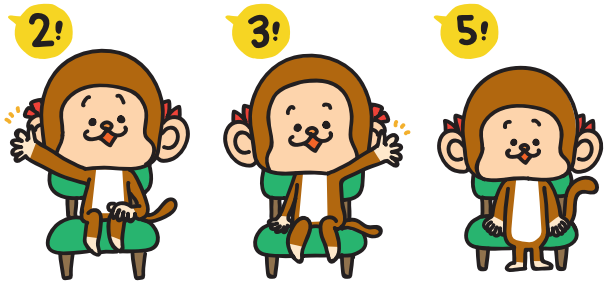
倍数体操

❶ はじめに

高学年になってくると，単純な歌やゲームには抵抗を示すようになってきます。そこで，他教科で学習した内容を積極的に英語の活動にも取り入れてみましょう。数は高学年の児童がある程度慣れ親しんでいる表現ですが，この活動では児童が数を聞き取ることが主となりますので，英語で数を言うことが苦手な児童でも楽しく活動に参加することができます。特別な準備は必要ありません。椅子があればどこででもできます。

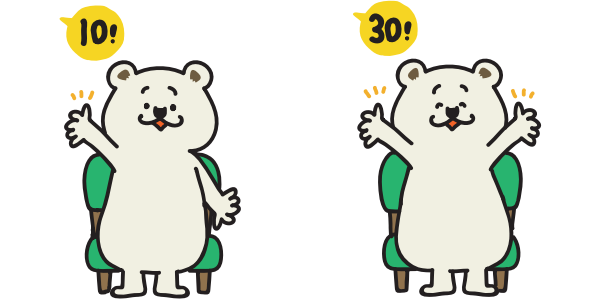
❷ ルール

教師が数を1から順に言っていきます。児童は座った状態で活動を始めます。数が2の倍数（2, 4, 6, 8, …）の時は右手をあげ，3の倍数（3, 6, 9, 12, …）の時は左手をあげます。そして5の倍数（5, 10, 15, 20, …）の時は立ち上がります。



モーナ

数には公倍数がありますね。例えば，「6」は2と3の公倍数ですので，両手をあげることになります。それでは「10」はどうでしょう。そうです，2と5の公倍数ですので，右手をあげて立ち上がります。同じように，「30」は2と3と5の公倍数なので，両手をあげて立ち上がることになります。公倍数の学習に有効な活動ですが，英語で数を言うことにより，英語の授業でも楽しく復習することができます。



ポラリン

❸ 活動を始める前のひと工夫

活動を始める前に，数をひと通り練習しましょう。黒板に数字を書いておき，2の倍数には赤丸，3の倍数には青丸，5の倍数には緑丸といった具合に丸をつけていきます。倍数を学習した児童はすぐに規則性に気がつくでしょう。ルールは，教師が日本語で説明するよりも，視覚的にわかるようにしたり実際に教師がやってみせたりするなどして，児童に気づかせたいところです。はじめは，丸をつけた表を見ながら練習するとスムーズです。

❹ 徐々にレベルアップ！

はじめは1～20の数字を順にゆっくりと言っていきます。慣れてきたら数を大きくしたり，スピードを速くしたりします。数をランダムに言っていくとさらに難易度が上がります。児童の学習状況に合わせて教師がルールを工夫すると良いでしょう。

Classroom English

◎ Raise your right/left hand.
「右手／左手をあげましょう。」
Stand up.
「立ち上がりましょう。」
それぞれの倍数でどのように動作をするのかを示します。児童に指導するときは，わかりやすいように教師は児童の鏡になるように左右反対に動きましょう。

◎ Good job./Excellent./Nice./Great./Amazing./Perfect.
児童が動作を理解できたり，うまく動くことができたりしたときはしっかりとほめましょう。ほめ言葉の表現がたくさんあると素敵ですね。

乗富 智子（のりとみ・さとこ）
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校教諭。金沢市内公立小学校を経て，同校へ勤務。

続

ティームティーチング，これから 対談

前号（第3号）に続き，明星学園小学校で英語を教えていらっしゃる入江先生（以下，入）とブレイン先生（以下，Bl）に，ティームティーチング（以下，TT）を成功させる秘訣をうかがいました。
今回のテーマは，「打ち合わせの時間がとれないなかでもTTを成功させるポイント」です。

秘訣② 忙しくてもできる TT!

Bl「TT の打ち合わせをする時間がない」って，よく耳にするよね。

入 そうだね。打ち合わせができないのは，忙しくて時間がない場合もあるし，ALT との契約内容や，言語の問題など，理由はいろいろあるようだけど。

Bl それでも授業はやってくるから，打ち合わせができないなかで，どうやってよりよい授業をつくるかだね。

入 そう。僕は，事前の打ち合わせができなくても，担任と ALT がそれぞれの特性をうまく組み合わせれば，それなりによい授業がつくれると思ってるんだよね。

Bl それは，担任の先生は子どものことや教育課程に精通していて，ALT は英語ができるという特性だね。

入 そう。実際にどう進めるかというと，まず，担任が授業プランを作り，一つひとつの活動の入口を担当して子どもたちの気持ちを動かすアプローチを ALT に見せる。ALT は，担任が行うアプローチを見て活動の進め方をつかみ，その活動を担任から引き取って，子どもたちと英語でのコミュニケーションを広げ，深めていく，ってわけ。

Bl 僕たちも打ち合わせの時間がないときはそうしているけど，ALT は，担任が見せてくれたやり方をまねて，子どもたちとコミュニケーションを楽しめばいいだけだよね。本当にシンプル。しかも，このやり方なら，担任の先生も，ALT と子どもたちとのやりとりを見ながら英語表現を学ぶこともできるね。

入 そう。担任の先生が ALT に授業前に伝えることは二つだけかな。「今日のねらいは○○！」ってことと「活動は私が導入するから，そのあと同じようにして，子どもたちとコミュニケーションを楽しんで」ってこと。

Bl ALT には，ぜひ「英語を教えるんじゃなく，子どもたちとコミュニケーションして」って伝えてほしいね。

Cameron Blain
（きゃめろん・ぶれいん）
明星学園小学校英語教師。
カナダ出身。

入江　潤
（いりえ・じゅん）
明星学園小学校教諭。
長崎県出身。

＊この対談の英語版は，「三省堂教科書・教材サイト」に掲載予定です。ALT の先生と教育観を共有する際にご活用ください。

VIVA 100KING!

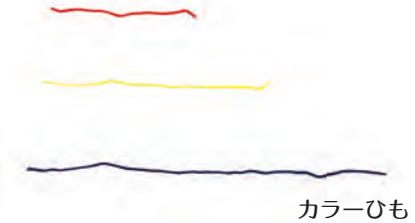
我輩は 100KING。100 円 SHOP は，教材やお助けグッズの宝庫。今回は，色，形状，数の導入に役立つカラーひもとカラーボールを紹介するぞ。

カラーひもは，好きな長さに切って使えるから，形容詞の long / short を導入するのに使える。学習内容のレベルを少し上げて比較級を導入することも可能じゃ。お次は，ボール。こちらは数の導入ができる。さらに，授業をするなかで“I have two red balls.”などと言えば，数詞・形容詞・名詞の語順を自然な流れの中で聞かせることもできるぞ。

ちゃり〜ん。カラーひもは 1 本 100 円で 4 メートル。カラーボールは 100 円で 10 コ入り。お買い得じゃ。また会おう。ふぉっふぉっふぉっ。

協力：ダイソー

カラーボール


カラーひも

Ready Set Go! よういドン! 第4号
2018年4月13日発行
○編集・発行人：北口克彦
○発行所：株式会社 三省堂
○印刷所：三省堂印刷株式会社

新発売!! 小学校3〜6年生対象／小学校英語向け 提示用デジタル教材

\ チャンツとチャンクで身につく /

音感（おとかん）キッズクラウン

下 薫(Julie Kaoru Shimo)・三省堂編修所 編

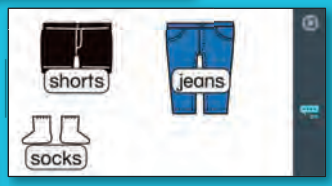
場面で話せる英単語 Part 1

特長その1 カテゴリごとに特色のある場面を設定! 同じ英単語をさまざまなパターンで練習することができます。

●WordボタンがONの状態でクリックすると…
hat

●ChunkボタンをONにすると…
a yellow hat

特長その2 文字の表示もON／OFF可能!



特長その3 英単語ごとのフラッシュカードでも提示できます!

特長その4 ゲーム性のあるActivityも収録!

特長その5 歌やチャンツも収録! Clothes Chant（抜粋）

A cap, a shirt, jeans and sneakers.
These are the clothes I want to wear. ～

●販売方式／価格／動作環境

販売方式
校内フリーライセンス(※)
※ご購入いただいた学校内の端末のみを対象とし、台数の制限なしでインストールできるライセンスです。

販売価格
通常版 :38,000円（税別）
年間ライセンス :10,000円（税別）

動作環境
対応OS:Windows7 / 8.1 / 10
CPU:上記OSが快適に動作すること
メモリ:上記OSが快適に動作すること

●収録カテゴリ
Alphabet Jingles / Animals /Classroom / Classroom English / Clothes / Colors / Conversation / Family / Feelings / Fruits and Vegetables / House and Chores / Numbers / Opposites / Routine / Shapes /Sports / Subjects / Time /Action Verbs / Weather

続編のPart2(約1000語収録)も2018年9月にリリース予定です!

商品紹介サイトもご覧ください!
https://tb.sanseido-publ.co.jp/otokan
ご注文書はこちらからダウンロードしていただけます。

本製品に関するお問合せがございましたら下記までお願いいたします。
株式会社三省堂 デジタル事業推進部 TEL:03-3230-9416 E-mail:info-tbdt@sanseido-publ.co.jp

三省堂教科書・教材サイト http://tb.sanseido.co.jp

三省堂 〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町 2-22-14 TEL(03)3230-9411(編集)・9412(営業)
●大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地 2-5-3 TEL(06)6341-2177
●名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-21-31 協和丸の内ビル 2F TEL(052)953-9211
●九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1 TEL(092)531-1531
●札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15 ビル 3F TEL(011)616-8722

デザイン 芝山雅彦(SPICE) イラスト 池田蔵人・すみもとななみ